

平成 26 年 11 月 22 日

桜門体育学会平成 26 年度大会のご案内

桜門体育学会事務局

ご挨拶

向寒の候、会員の皆様におかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、リニューアル後の桜門体育学会大会も本年度で第 5 回目を迎えます。今回は特別講演に松田悠介氏（NPO 法人「Teach For Japan」代表）を招いて、「時代を切り開く次世代の指導者達へ」のテーマで講演していただきます。また、シンポジウムでは「スポーツによる社会貢献の可能性を探る」をテーマとし、佐藤国正氏（桐蔭横浜大学）、田中宏明氏（NPO 法人「セブンスピリット」代表）、渋谷崇行氏（桐蔭横浜大学）にそれぞれ社会貢献活動に対する参加者、実践者、研究者としての異なった立場から話題を提供していただくと共に、特別講演の松田悠介氏にも、コメンテーターとして参加していただきます。

文字通り、時代を切り開く若手の指導者や研究者を中心に据えたテーマとなっていますので、特に大学院生や体育学科生（準会員）には積極的に討論に参加していただきたいと考えています。併せて、本大会が会員の皆さんの交流を深め、日本大学の健康・スポーツ科学の発展に一致団結して邁進する契機になることを願っております。

平成 26 年度大会実行委員会委員長 重城 哲

1. 大会概要

- ※ 会 期： 平成 27 年 1 月 25 日（日）
- ※ 会 場： 日本大学文理学部百周年記念館他
- ※ 大会事務局： 日本大学文理学部体育学研究室
住所：〒156-8550 東京都世田谷区桜上水 3-25-40
TEL：03-5317-9717 FAX：03-5317-9426

2. 参加登録

※ 事前申込の期限と参加登録の手続き

- ・同封の「大会参加・発表申込み用紙」に必要事項を記入し、桜門体育学会事務局まで FAX【047-474-2834】でお送り下さい。または、本学会のホームページ【<http://www.nu-taiiku.jp/society/>】から「大会参加・発表申込み用紙」をダウンロードし、学会事務局のメールアドレス【omonjim@nu-taiiku.jp】にご送付下さい。FAX、メールともに締め切りは 12 月 14 日（日） と致します。

- ・大会参加費は学会員、非会員共に 3,000 円です。大会参加者と発表者の方が大会当日、受付にてお支払い下さい。共同研究者であっても、大会に参加されない方は不要です。

3. 一般発表（ポスター発表）申込要領

※ 申込期限と登録方法

- ・ 12 月 14 日（日）までに、発表抄録原稿を学会事務局のメールアドレス【omonjim@nu-taiiku.jp】にご送付下さい。
- ・送付方法は電子メール、送付ファイルは Word 文書と致します。大会事務局にて、期日内の到着を確認後、発表を登録致します。

※ 抄録作成、送付手続きの詳細

- ・ Word で作成した抄録のファイル名称を「発表者の姓-名」にして下さい。例えば発表者が重城哲（ジュウジョウアキラ）であれば、「jujo-akira」となります。
- ・電子メールの件名を「omon（漢字で発表者の姓名）」とし、本文 1 行目に電話連絡先をご記入下さい。
- ・以下の要領に従って発表抄録を作成して下さい。なお、書式の Word ファイル「大会抄録書式」が、本学会ホームページ【<http://www.nu-taiiku.jp/society/>】にありますのでダウンロードしてください。
 - 1) 用紙： A4 版横書き 1/2 ページに収まるように要旨をまとめる。
 - 2) 文字： 明朝体、10 ポイント以上を用いる。
 - 3) 演題・氏名等：
 - ①演題は上段 1 行目または 2 行目を用い、副題がある場合は改行して記入する。
 - ②演題は拡大文字を使用する。
 - ③演者と共同研究者の氏名は、4 行目と 5 行目を用いる。所属機関は氏名の後に括弧（ ）書きをする。演者には、氏名の前に丸「○」をつける。
 - ④準会員（体育学科学生）は共同研究者として、指導教官名を必ず記載する。
 - 4) キーワード： 6 行目に 2～5 語程度で記入する。
 - 5) 本文： 本文は 7 行目から記入する。

【「大会参加・発表申込み用紙」、「発表抄録」の送付先】

桜門体育学会事務局： e-mail： omonjim@nu-taiiku.jp

Fax： 047-474-2834

4. 大会行事

※ 一般発表 (10:00~11:30)

- ・演題数にもよりますが、発表を研究領域毎に3ブロックに分け(3名の座長)、3ブロック同時進行で、10:00から1名2~3分程度のプレゼンテーションを順番に行います。
- ・質疑応答はすべてのプレゼンテーション終了後にそれぞれのポスター前で行います。発表者が随時ご対応下さい。
- ・プレゼンテーションは10:45位に終了する予定ですが、発表者は11:30まで在席して下さい。
- ・ポスターの大きさは縦140cm、横90cmで作成してください。2m先からでも十分にみえる図表、文字を使用して下さい。演題、発表者、共同発表者、所属を明示して下さい。

※ 特別講演 (13:00~14:00)

「時代を切り開く次世代の指導者達へ」

NPO 法人「Teach For Japan」代表
松田悠介氏



<経歴>

日本大学文理学部体育学科を卒業後、体育教師として中学校に勤務。体育を英語で教える Sports English のカリキュラムを立案。その後、千葉縣市川市教育委員会教育政策課分析官を経て、ハーバード教育大学院(教育リーダーシップ専攻)へ進学し、修士号を取得。卒業後、PwC Japan にて人材戦略に従事し、2010年7月に退職。Teach For Japan の創設代表者として現在に至る。日経ビジネス「今年の主役100人」(2014年)に選出。世界経済会議(ダボス会議) Global Shapers Community 選出。経済産業省「キャリア教育の内容の充実と普及に関する調査委員会」委員。奈良県奈良市「奈良市総合計画審議会」委員、「奈良市教育振興戦略会議」委員。共愛学園前橋国際大学「グローバル人材育成推進事業」外部評価委員。京都大学特任准教授。著書に「グーグル、ディズニーよりも働きたい「教室」(ダイヤモンド社)」。

<特定非営利活動法人 Teach For Japan の紹介>

特定非営利活動法人 Teach For Japan は、「ひとりひとりの子どもの可能性が最大限活かされる社会の実現」をミッションとし、教育格差の是正を実現するために教師派遣事業

と学習支援事業を全国で展開している団体である。

Teach For Japan のモデルとなっているのが、2010年に全米の文系大学生の就きたい仕事ランキングで一位にもなった、Teach For America であり、1990年、当時プリンストン大学4年生であったウェンディ・コップにより設立された非営利団体である。教育機会の不平等の是正を目的として、アメリカ国内の再貧困地域の学校等、最もニーズのある現場に、選抜・研修を経た教師を2年間派遣するプログラムを実施している。

Teach For America をモデルとした Teach For Japan の教師派遣事業においては、教員免許の有無を問わず、ひろく社会よりプログラム参加者を募集している。複数回にわたってなされる各種選考により選抜の上、既存の教員養成のあり方を刷新する研修およびフィードバック体制によって育成した教師を、教育課題を抱える学校に派遣している。

教師派遣事業に加えて、生活保護受給世帯の児童生徒や、各種の事情により学習遅滞を抱えることとなった児童生徒に対して短期間の支援を行う学習支援事業を実施しており、東日本大震災を受け、東京都内応急仮設住宅において同様の事業を展開している。

Teach For Japan は持続可能な支援モデルを構築するために、毎日プログラム開発に取り組んでいる。従来の学習支援に参加する人材の動機となっている「社会貢献・ボランティア」というコンセプトとともに、参加する人材の「自己成長」の場を提供する事により、継続的にプログラムに参加する人材を確保している。

※ シンポジウム (14:15~16:15)

「スポーツによる社会貢献の可能性を探る」

司会：

磯貝浩久氏(九州工業大学)

シンポジスト：

佐藤国正氏(桐蔭横浜大学)

田中宏明氏(特定非営利活動法人セブンスピリット)

渋谷崇行氏(桐蔭横浜大学)

コメンテーター：

松田悠介氏(特定非営利活動法人 Teach For Japan)

【要旨】

スポーツによる社会貢献は様々なかたちで行われている。スポーツが有する資源をいかに効果的に用いて社会貢献に繋げていくかという視点は、今後ますます重要視されるであろう。このシンポジウムでは、社会貢献の中でも特に国際協力に焦点を当てて、スポーツが有する可能性について考えてみたい。

スポーツによる国際協力は教育、文化交流、貧困対策、平和等、様々なキーワードの下で実施されてきた。こうした事実からいえることは、スポーツには国際協力に貢献しうる何らかの力があると認められてきたということである。それでは、国際協力に貢献しうるようなスポーツが有する資源とは何であろうか。この問いに答えることは、国際協力の観点からスポーツの意義を検討することでもある。そして、そこから導かれた資源を意図的

に実践に応用することによって、スポーツによる国際協力はより効果的に行われるようになるであろう。

一方、体育・スポーツ系の学部で学ぶ学生に目を転じてみると、彼らが専門職として働く場合は、現状では教員や民間スポーツクラブのインストラクターなどに限られてきた。このことから、体育・スポーツ系学部における専門職養成も、そのような職種を意識して行われることが多かったといえる。しかし、国際協力に果たすスポーツの役割が明確になり、その広がり在今后ますます期待されるのであれば、体育やスポーツの専門家がその分野で活躍することも求められるようになる。それでは、スポーツによる国際協力の実践者に備わるべき能力や資質とはどのようなものなのか。それに準じて、体育・スポーツ系学部における教育内容に変化が生じたり新たなものが加わったりする可能性もある。

さらに、我々研究者が、スポーツによる国際協力にどのように貢献できるのかということについても考えたい。スポーツによる国際協力が効果的に行われるようになるためにはどのような研究が求められるのか。国際協力において、実践に役立つ知識への需要は大きいことが予想される。したがって、我々研究者には実践に役立つ研究を進めていくことがますます求められそうである。

以上のような関心から、本シンポジウムでは主に次の3点について、佐藤国正氏には参加者の立場、田中宏明氏には実践者の立場、渋谷崇行氏には研究者の立場から、それぞれ話題を提供していただくと共に、松田悠介氏にもコメンテーターとしての意見を頂戴しながら、検討を進めたい。そして、その議論を通して、スポーツによる国際協力の可能性や今後の課題を導きたいと考えている。

- 1) スポーツが行うことができる国際協力とはどのようなものか、またスポーツには国際協力を貢献しうるどのような資源があるのか。
- 2) スポーツによる国際協力を推進するうえで、その実践者に求められる能力や資質とはどのようなものか。また、専門職養成という点からは、どのような学習や経験が求められるのか。
- 3) スポーツによる国際協力に対して、我々研究者はどのような貢献ができるのか。また、期待される研究テーマとしてどのようなものが考えられるのか。

※ 総会 (16:30~17:00)

※ 懇親会 (17:15~18:30)

会場：カフェテリア「秋桜」

会費：2,000円（会費は当日、徴収致します）

以 上